

その他（自由選択科目）：教育実践特別講義

担当教員：隅田学，河野極，鴛原進，菅谷成子（法文学部），竹下浩子，大橋淳史，熊谷隆至，池野修，藤田昌子，荻田知則，河村泰之，高橋治郎，富田英司，ボグダン・デイビッド，深田昭三，向平和，吉村直道，高橋志野（国際連携推進機構），ルース・バージン（国際連携推進機構）

フィリピンでの教育実践体験で学生が得たもの（5）

理科教育講座・隅田学

授業の目的

本授業は、「フィリピン大学（学術交流協定締結校）と連携協力しながら、英語を教授言語として授業を計画・準備し、現地渡航して授業実践を行い、教育分野における国際的な感覚を培う」ことを目的としている。

具体的な到達目標は、以下の3つである。

- (1) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校等の各教科等から、任意の学年段階・内容を選び、フィリピンの教育制度や文化を踏まえながら、授業資料を英語で独自に開発することができる。
- (2) 開発した教材や資料等を利用し、英語を教授言語として、フィリピンの子どもたちに授業を行うことができる。
- (3) フィリピンの学校視察や文化交流を通して、国際的な教育活動への関心を高め、様々な文化・言語の人たちと経験や理解を共有することができる。

受講者数

本授業は、フィリピンでの教育実践体験への参加を受講の条件としている。受講者数（渡航者数）は16名であった。学部構成と、各授業グループは表1のとおりであった。

表1 受講者の学部構成とグループ

学部構成		
教育学部		14名
学校教育教員養成課程		11名
総合人間形成課程		2名
特別支援教育教員養成課程		1名
理学部		1名
法文学部		1名
授業グループ		
小学校	社会科グループ	4名
	算数グループ	4名
	理科グループ	4名
中学校	理科グループ	4名

授業の概要

本授業は、大きく分けて次の3つの要素から成り立っていた。

(1) 日本での授業準備

渡航前の7月から1月上旬まで、各授業グループに分かれて、担当教員の指導を受けながら授業の指導案作りや、教材作りを行った。11月には、フィリピン大学教育学部のアメリカ・ファハルド先生ほか3名を愛媛大学に招聘し、事前指導と全体講義を行った。アメリカ先生には、学生が作成した指導案についても、個別に丁寧な指導していただいた。

(2) フィリピンでの教育実践体験

フィリピンに渡航し、現地で授業実践をすることに加えて、フィリピン大附属学校以外の現地校の見学や、様々な文化体験なども行った。この教育実践体験の詳細については、次節で報告する。

(3) 成果報告会

2月8日に学生グループによる授業実践の成果報告会を行った。フィリピン大学教育学部講師で現在愛媛大学大学院教育学研究科在学中のアグカウイリ・ザリナ・バラキエル先生に特別講演（題目：Philippine Multicultural Society and Social Studies Education）をして頂いた。

フィリピンでの教育実践体験

フィリピンでの教育実践体験は、大きく分けて次の3つの要素から成り立っていた。

(1) 現地校の見学

公立小学校である Camarin Elementary School と、私立学校の Miriam College、国立学校の UP Rural High School 等を訪問、見学した。



(2) 授業実践

小学校社会科，小学校算数，小学校理科，中学校理科の各グループが，藍染めー地域の植物とサイエンスー（小学2年），百分率（小学5年），日本の文化（小学3年），地震と津波（中学1年）をテーマについて，フィリピン大学附属学校（UPIS）にて授業実践を行った。授業実践に先立って授業観察と現地校の授業担当教員との事前打ち合わせを行うと共に，授業実践後には，授業担当教員と授業を振り返りながら研究協議を行った。



(3) 文化体験

国立博物館，ビラ・エスクデロを訪問・見学し，文化視察・体験を行うと共に，国際交流基金，在マニラ日本大使館を訪問し，その活動や国際的な高度職業人として求められるものについて意見交換を行った。



学生による成果評価

自分が身につけたさまざまな能力についての評定を，説明会，渡航直前，渡航後の3回評定を求め，その結果を下表に示す。表中の値は，1（全くできない）～5（十分にできる）の5段階評定の平均値である。

1)フィリピンの子どもたちにふさわしい教材をつくることできる，2)フィリピンの子どもたちによくわかるように説明することできる，6)フィリピンの文化や習慣を日本の子ども達に紹介することできる，英語で説明をしたり会話をしたりすることできる，3つの項目については，説明会時から渡航直前にかけて有能性が上昇し，渡航後にはさらに大きく上昇する傾向があった。

他の3), 4), 5), 7), 8), 9), 10)全ての項目については，特に渡航経験を通して，大きな上昇が見られた。4)を除く全ての項目の平均値が3.5を超え，特に3)様々な人と協同してより質の高い授業を行うことできる，6)フィリピンの文化や習慣を日本の子ども達に説明できる，9)世界のさまざまな人々と交流することできる，の項目については，渡航後の平均値が4.0を超えた。

表2 本プログラムを通じた参加学生の変化

	ガイダンス時	渡航直前	渡航後
1) フィリピンの子供達にふさわしい教材を作ることができる	2.81	2.88	3.75
2) フィリピンの子供達によく分かるように説明することができる	2.56	2.88	3.50
3) 様々な人と協同してより質の高い授業を行うことができる	3.75	3.69	4.38
4) 英語で説明をしたり会話をしたりすることができる	2.81	2.81	3.38
5) 英語で電子メールや手紙を書くことができる	3.06	2.94	3.63
6) フィリピンの文化や習慣を日本の子供達に説明できる	2.25	2.38	4.19
7) 日本の文化や習慣をフィリピンの子供達に紹介できる	3.19	3.13	3.69
8) 日本を世界的な視野に位置づけて考えることができる	3.19	2.81	3.75
9) 世界の様々な人々と交流することができる	3.19	2.88	4.19
10) 世界の様々な国で、自分を役立てることができる	2.81	2.69	3.81